



## 山あいの知られざる歴史～旧岩美鉱山の光と影～ いわみ

劇場へ美空ひばりの映画をよく見に行った。その周りには銭湯、散髪屋、売店、飲み屋、スポーツのできるグラウンドまであり、多くの人でにぎわっていた。昭和 10～20 年代、今からほんの 90 年前の話です。鳥取県岩美町荒金にある旧岩美鉱山（<sup>あらかね</sup>荒金鉱山）は、かつては日本有数の銅の鉱山で、最盛期には 500 人もの人々が働いていたと言われています。岩美町の海辺の村や峠を越えて雨滝（<sup>あめだき</sup>鳥取市国府町）の方からも働きに来ていたそうです。当時日本統治下にあった朝鮮半島からも多くの労働者が家族とともに荒金に来て暮らしていました。その活況ぶりは現在の静かな谷あいの風景からは想像することができません。今回は、あまり知られていない岩美の山間部の物語を紹介します。

### かつて、日本のいたるところにあった鉱山

岩美鉱山の発見や採掘の歴史は非常に古く、7 世紀末から 8 世紀初頭ともいわれていますが、記録が定かなところでは最盛期は大正から昭和初期にかけてです。昭和 4（1929）年には年間 11,415 トンもの鉱石を掘り出していました。

実は岩美鉱山に限らず、当時は国内のいたるところで鉱山開発が行われていたのです。特に戦争中は国内で金属などの地下資源を確保することが急務だったためです。戦後も、それらの鉱山は復興と経済成長を支えました。しかし、資源の枯渇や海外産の安い鉱石の流入により、昭和後期までに多くの鉱山が操業を止めました。岩美鉱山も、昭和 46（1971）年に



図 2 旧岩美鉱山の坑道内の様子  
岩美町鉱害防止協会にて見学できる（要申込 0857-72-0426）。

閉山しました。金属の鉱山では、鹿児島県にある菱刈鉱山（<sup>ひしかり</sup>金の鉱山）のみが日本で唯一現在も操業しています。

### 大地の熱と水の作用でつくられる鉱床<sup>こうしょう</sup>

岩美鉱山のような銅の鉱床はどのようにしてできるのでしょうか？銅をはじめ、金、銀などの人間の役に立つ金属は、大地を構成する多くの岩石に含まれています。しかし、そのままでは濃度が薄すぎて、取り出して利用することができません。人間が取り出しやすい形に金属を集めて濃度を濃くしてくれるのが、水です。地下深くの圧力が高い場所では、地表だと 100℃以上で沸騰して水蒸気になる水が、100℃を超えても液体で存在します。それを熱水<sup>ねっすい</sup>といいます。（裏へ続く）



図 1 旧岩美鉱山の位置。  
地図は、地理院地図ウェブサイトからの航空写真と陰影起伏図を合成したものです。

熱水が、地下の岩石や地層の隙間や割れ目を通ると、岩石に含まれる金属を溶かし出します。水の温度が下がると、それらの金属をたくさん含んだ結晶が割れ目の中につくられます。このようにしてできるのが熱水鉱床です（鉱床には熱水鉱床以外にもさまざまなタイプがあります）。

## 岩美鉱山を襲った悲劇

さて、活況だった裏で、岩美鉱山周辺の地域に起こっていた深刻な状況がありました。鉱山から流れ出る、重金属（銅や鉄など）が溶け込んだ酸性の水による害です。川に魚がいなくなり、米の収穫量が減っていました。

そのような中、岩美鉱山に突然悲劇が襲いました。第二次世界大戦中の昭和18（1943）年に起こった鳥取地震です。激震により、鉱石のかす（<sup>こう</sup>泥）を沈殿していたダムが決壊し、すぐ下にあった労働者の長屋や荒金の民家などが瞬時に倒壊、流失しました。加えて下流の水田にも鉱泥が流入して埋没するなど大きな被害となりました。死者・行方不明者は60数名に上り、掘り出せなかった遺体が現在でも土の下に眠っています。鳥取地震により坑内外に壊滅的な被害を受けた岩美鉱山は、その後、急速に衰退していきました。

## 半永久的に続く<sup>こうはいすい</sup>鉱山の坑廃水処理

岩美鉱山の閉山後も、坑道からは有毒な水が絶えず流れ出ています。このため、旧岩美鉱山では、昭和47（1972）年から、その水を中性にして重金属を取り除く処理（中和処理）が続けられています。かつて国内にたくさんあった鉱山の中には、<sup>はいこう</sup>廃坑後も半永久的にこのような坑廃水処理を続けなければならない場所が多くあります。

海と大地の自然館では、7月5日（土）に、地球の熱と水に育まれた岩美町山側のスポット（旧岩美鉱山、岩井温泉、<sup>えんこうじ</sup>延興寺窯）をめぐり、その歴史を知ることができるバスツアーを企画しています。旧岩美鉱山では、鉱石を掘り出していた坑道や中和処理施設を見学します。この機会に人間と自然のかかわり方について考えてみませんか？（金山）

[主な参考文献]

小田地区自治会地区誌編集委員会（2022）『荒金鉱山と小田地区』

山名巖（1998）『鳥取県における鉱山の情報—終戦前夜の動向—』鳥取地学会誌第2号、p.29-53.

イベント詳細はこちら



## ♪旧岩美鉱山（荒金鉱山）に関係したイベント♪（主催：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館）

参加者募集中

### ガイドと行くツアー 岩美の山側編

地球の熱と水に育まれた岩美の山側の歴史とは！？大地と人間の奥深いつながりを感じられるバスツアーです。

◎訪問予定地：岩井温泉、旧岩美鉱山、<sup>えんこうじ</sup>延興寺窯

日時：7月5日（土）9時～12時15分

集合場所：山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

定員：20名（先着順・要申込）

申込受付期間：6月21日～7月4日（とっとり電子申請サービス）

### 荒金鉱山と鮭物語

かつて鉱害により生き物が減った岩美町小田川ですが、様々な努力によりサケが戻ってきました。旧岩美鉱山（荒金鉱山）と小田川の生き物との関わりを学び、生態系について理解を深めます。

日時：11月23日（日・祝）9時～12時

集合場所：岩美町岩常宮橋付近「岩常夢はうす」

定員：20名（先着順・要申込）

申込受付期間：11月9日～22日（とっとり電子申請サービス）

### そのほかにもこの時期ならではのイベントを開催します！

7/13（日）・31（木）9:00～12:15 磯の生き物観察会

7/22（火）9:00～12:00 【いきもの探しはデカルチャーin鳥取】山陰海岸の生き物を観察しよう！